

財務の概要

令和元年度は、昨年度に引き続き施設将来計画を着実に実行した。河田町キャンパスでは、2月に弥生記念教育、巴研究教育棟が竣工した。

東医療センターの足立区移転に関しては、令和3年7月竣工に向け工事が進められている。このような多額の施設設備投資を行ったため、資金面では自己資金のみで全ての資金を賄うことはできず、施設設備投資にかかる借入金は平成30年度に比べ約75億円増加した。

収支面では、経営統括理事の主導の下、その直轄組織である経営統括部を通じ徹底的な経費削減を始めとして、人件費の適正化等の重要な経営課題に対しスピード感をもって確実に取り組んできた。

主な3施設の収入に関しては、本院の患者数で減少傾向であったが、診療単価の大幅改善がそれを補う形となった。東医療センターは近年同様安定した収入を維持した。八千代医療センターは入院部門で患者数が低調となったが、外来部門の奮闘により全体では微増である。その結果、前年度実績に比べ14億3千2百万円の増収であった。その他、特別収入として、東医療センター新病院移転に係る足立区よりの補助金として24億円が計上された。結果事業活動収入は前年度に比べ17億5千1百万円増加となり、予算を1億7百万円上回る結果となった。

一方、支出面では人員数の減少等により人件費が抑えられ予算を10億6千3百万円下回った。その結果、基本金組入前収支差額は予算を31億5千8百万円上回る47億9千3百万円の収入超過となった。